

つ・む・ぐ

横浜市青葉区の高級住宅街、たまプラーザ。毎年、子どもから高齢者まで100人前後の住民が集まり街中で披露するダンスが話題になっている。「住民同士の交流が生まれ、街に愛着や誇りを持ってくれれば」。中心は住民でつくる「たまプラー座だよ！全員集合！」。まちなかパフォーマンズプロジェクトの代表を務める林月子（52）だ。

住民が街頭パフォーマンス

「たまプラー座だよ！全員集合！」

代表

林 月子氏



「はやし・つき」1963年、岐阜市生まれ。岐阜県立長良高校卒業後、ヤマハ音楽教室で講師に。出産を機に退職。たまプラーザで小学校のPTA会長を務め、13年から現職。

「しゅれな街というイメージに住民が引っ張られている。住民の個性が出し合えるようになればもっとすてきな街になる」

地元にあこがれ・誇り育む

プを使ったなわとびのダブルダッチなどを披露した。45分間の熱演に観覧者から歓声が湧いた。パフォーマンスは今回で3回目。初回は2013年、

「たまプラーザ駅前が開かれ、きっかけは12年の街づくりに関するワークショップへの参加だった。住民らの提案を決意。結婚を機に故郷の岐阜市を離れ、たまプラーザで約20年を過ご

翌年、住民による街づくりプロジェクト案が募集され、街中のパフォーマンスの提案を決意。結婚を機に故郷の岐阜市を離れ、たまプラーザで約20年を過ご

突然一斉に踊り出すフラッシュモブを決行。約150人が踊りを披露し、大成功に参加。大勢の住民を巻き込んだプロジェクト設立は初めてだった。街づくりの専門家らに話を聞いたり、1000人以上の住民にアンケートをとったりしてイメージを固めていった。「テーマが大事」との専門家の助言を受け、

「育ちあい」に決めた。年齢や職業などに関係なく学び合い、人や街を思う気持ちで成長して欲しいとの思いを込めた。パフォーマンスに使う場所の許可申請、住民との調整、練習。住民の協力を得ながら発案から半年後に、通行人などに紛れた演者が「今度参加したい」との声を押し付け、翌年は商店街で開催。「駅に着くと自分の街に帰ってきたと思うようになった」との声も寄せられた。住民間に一体感と地域への愛着が育ちつつある。

「育ちあい」に決めた。年齢や職業などに関係なく学び合い、人や街を思う気持ちで成長して欲しいとの思いを込めた。パフォーマンスに使う場所の許可申請、住民との調整、練習。住民の協力を得ながら発案から半年後に、通行人などに紛れた演者が「今度参加したい」との思いを込めた。パフォーマンスに使う場

輪を広げるとともに、1回だけのパフォーマンスにとどまらない新しい形も模索したい」と意気込む。

敬称略
（杉垣裕子）

神奈川



横浜支局 0445-2201-2555
川崎支局 0445-2221-7793